（様式第 10）

浜 医 大　医　第 ４ 号
令和　元年１０月　４日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　国立大学法人浜松医科大学
学長　今 野　弘 之　　（印）

浜松医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒431-3192　静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
氏　　名	国立大学法人浜松医科大学　学長　今野弘之

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

浜松医科大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒431-3192
静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号　　電話（０５３）　４３５　－　２１１１

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

(1) 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科			(有)・無
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			

（注）1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2)外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科　2消化器外科　3乳腺外科　4心臓外科 5血管外科　6心臓血管外科　7内分泌外科　8小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科　2小児科　3整形外科　4脳神経外科　5皮膚科　6泌尿器科　7産婦人科 8産科　9婦人科　10眼科　11耳鼻咽喉科　12放射線科　13放射線診断科 14放射線治療科　15麻酔科　16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科　2 神経科　3 心臓血管外科　4 リハビリテーション科　5 形成外科 6 病理診断科　7 小児外科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
３７床	床	床	床	５７６床	６１３床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　　種	常　勤	非常勤	合　計	職　　種	員　数	職　　種		員　数
医　　師	373人	106人	408.4人	看護補助者	39人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	11人	3人	11.6人	理学療法士	21人	臨床検査	臨床検査技師	66人
薬　剤　師	48人	0人	48人	作業療法士	8人		衛生検査技師	0人
保　健　師	0人	1人	0.4人	視能訓練士	4人		そ　の　他	0人
助　産　師	40人	1人	40.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看　護　師	633人	46人	665.3人	臨床工学士	18人	医療社会事業従事者		5人
准看護師	3人	4人	6.0人	栄　養　士	0人	その他の技術員		86人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	0人	事　務　職　員		122人
管理栄養士	9人	3人	11.3人	診療放射線技師	36人	その他の職員		14人

（注）1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下１位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	４８人	眼科専門医	１０人
外科専門医	４０人	耳鼻咽喉科専門医	１２人
精神科専門医	９人	放射線科専門医	１４人
小児科専門医	２３人	脳神経外科専門医	８人
皮膚科専門医	８人	整形外科専門医	２０人
泌尿器科専門医	５人	麻酔科専門医	２７人
産婦人科専門医	２０人	救急科専門医	４人
		合　計	２４８人

（注）1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下１位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　金山尚裕　）　任命年月日　平成３０年４月１日

平成11年より産婦人科長として安全な医療の提供を推進している。
また、平成16年～20年は副病院長（安全管理担当）として、病院内の医療安全に関して統括的な役割を担った。

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	491.00人	4.90人	495.90人
１日当たり平均外来患者数	1260.00人	50.50人	1310.50人
１日当たり平均調剤数	768.30 剤		
必要医師数	124.4人		
必要歯科医師数	4.0人		
必要薬剤師数	17人		
必要（准）看護師数	292人		

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.20m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	１２床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	［固定式の場合］　床面積　316.5　m^2 ［移動式の場合］　台数　台		病床数　２４　床			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］　床積　21　m^2 ［共用室の場合］　共用する室名					
化学検査室	413.17m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）生化学・免疫全自動分析装置・全自動血液検査システム			
細菌検査室	174.70m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）自動細菌同定感受性装置・自動血液培養装置			
病理検査室	149.80m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）自動固定包理装置・パラフィン包理ブロック作成装置・ミクロトーム			
病理解剖室	46.00m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）排水滅菌システム・固定液作成装置・解剖台			
研究室	436.80m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）臨床情報検索データベースシステム			
講義室	255.10m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	室数　1　室		収容定員　170　人	
図書室	61.20m^2	鉄骨鉄筋コンクリート	室数　1　室		蔵書数　6,200　冊程度	

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹　介　率	100.0%	逆　紹　介　率	54.5　%
算出根拠	Ａ：紹　介　患　者　の　数		13,217　人
	Ｂ：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,810　人
	Ｃ：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,950　人
	Ｄ：初　診　の　患　者　の　数		16,160　人

（注）1　「紹介率」欄は、Ａ、Ｃの和をＤで除した数に 100 を乗じて小数点以下第１位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、ＢをＤで除した数に 100 を乗じて小数点以下第１位まで記入すること。
3　Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
小島　崇宏	大阪A&M法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するもの	有・(無)	1
桑原　允嗣	なし		医療を受ける者	有・(無)	2
大磯　義一郎	国立大学法人浜松医科大学		法律に関する見識を有するもの	(有)・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 大学ホームページ	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先　進　医　療　の　種　類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断　アルツハイマー病	3人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	9人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	32
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	36
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	133	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	31
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	42	66	IgA 腎症	23
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	20
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	35	68	黄色靭帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	9	69	後縦靭帯骨化症	79
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロウ・深瀬症候群	2	71	特発性大腿骨頭壊死症	50
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	26	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	25
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	18
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	8	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	65
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	132
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	63
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	46
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	14
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
34	神経線維腫症	13	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	17	90	網膜色素変性症	21
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬（汎発型）	15	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	13
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	3
41	巨細胞性動脈炎	5	96	クローン病	161
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	160
43	顕微鏡的多発血管炎	16	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	12	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	20	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	169	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	102	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	52	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	16	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	15	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	5	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	5
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	3
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	15	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	19

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	1	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料(13対1)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・臨床研修病院入院診療加算　基幹型	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算２
・妊産婦緊急搬送入院加算	・地域連携診療計画加算
・診療録管理体制加算1	・入院時支援加算
・医師事務作業補助体制加算(75対1)	・総合評価加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・呼吸ケアチーム加算
・看護職員夜間配置加算（12対1）配置加算１	・後発医薬品使用体制加算1
・看護補助加算2(50対1){精神}	・病棟薬剤業務実施加算1
・療養環境加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・重症者等療養環境特別加算	・データ提出加算2
・無菌治療室管理加算1	・提出データ評価加算
・無菌治療室管理加算2	・認知症ケア加算２
・緩和ケア診療加算	・精神疾患診療体制加算
・個別栄養食事管理加算	・精神科急性期医師配置加算
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料　小児加算
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・がん診療連携拠点病院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料　プレイルーム加算
・感染防止対策加算1	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・感染防止対策地域連携加算	・歯科外来診療環境体制加算２
・抗菌薬適正使用支援加算	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・医療機器安全管理料1
・高度難聴指導管理料	・医療機器安全管理料2
・糖尿病合併症管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算
・がん患者指導管理料1	・造血器腫瘍遺伝子検査
・がん患者指導管理料2	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料3	・骨髄微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料 （臓器移植後）	・抗HLA抗体（スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査）
・移植後患者指導管理料 （造血幹細胞移植後）	・HPV核酸検出
・糖尿病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・小児運動器疾患指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・国際標準検査管理加算
・院内トリアージ実施料	・遺伝カウンセリング加算
・夜間休日救急搬送医学管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・救急搬送看護体制加算	・植込型心電図検査
・外来リハビリテーション診療料	・時間内歩行試験及びシャルトウォーキングテスト
・外来放射線照射診療料	・胎児心エコー法
・ニコチン依存症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・相談体制充実加算	・人工膵臓
・開放型病院共同指導料	・皮下連続式グルコース測定
・がん治療連携計画策定料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん治療連携管理料	・神経学的検査
・外来がん患者在宅連携指導料	・補聴器適合検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ロービジョン検査判断料
・薬剤管理指導料	・コンタクトレンズ検査料1
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・小児食物アレルギー負荷検査

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・内服・点滴誘発試験	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・画像診断管理加算1	・人工腎臓慢性維持透析を行った場合1
・画像診断管理加算2	・導入期加算1
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・一酸化窒素吸入療法
・冠動脈CT撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・大腸CT撮影加算	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・心臓MRI撮影加算	・皮膚移植術（死体）
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術))
・外来化学療法加算1	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。)))
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）	・後縦靭帯骨化症（前方進入によるもの）
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）	・腫瘍脊椎骨全摘術
・廃用症候群リハビリテーション料（Ｉ）	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・運動器リハビリテーション料（Ｉ）	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・羊膜移植術
・集団コミュニケーション療法料	・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・各リハビリテーションの初期加算	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・児童思春期精神科専門管理加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型(拡大副鼻腔手術)
・認知療法・認知行動療法1	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・精神科作業療法	・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・ダメージコントロール手術
・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
・腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・体外衝撃波胆石破砕術
・膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・腟腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・体外衝撃波膵石破砕術
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・磁気ナビゲーション加算	・同種死体腎移植術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・生体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・膀胱水圧拡張術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術　リードレスペースメーカーの場合	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)
・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	・輸血管理料Ⅰ
・補助人工心臓	・輸血適正使用加算
・経皮的大動脈遮断術	・貯血式自己血輸血管理体制加算

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・コーディネート体制充実加算	・歯周組織再生誘導手術
・自己生体組織接着剤作成術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・自己クリオプレシピテート作製術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・CAD/CAM冠
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・麻酔管理料（Ⅰ）	・
・麻酔管理料（Ⅱ）	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療（IMRT)の1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療（直線加速器による放射線治療）	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算・その他のもの	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・保険医療機関間の連携によるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・
・保険医療機関間の連携によるデジタル病理画像による迅速細胞診	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・医療機器安全管理料(歯科)	・
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科診療の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療の診療に係るものに限る。)	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・EBウイルス感染症迅速診断（リアルタイムPCR法）	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断科：臨床研修CPC（病理診断科主催）11回，CPC・PMC（病理学講座主催）11回 検査部：血液内科カンファレンス（週1回）、ハートチーム（TAVI)カンファレンス（週1回）
剖検の状況	剖検症例数 30 例 ／ 剖検率 10.2 %

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
質の高い消化器がん診療の均てん化を目指した、専門医制度の評価・育成プログラム構築システムの開発	今野 弘之	－	¥14,198,000	補 委	厚生労働省科学研究費
認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	¥2,795,000	補 委	厚生労働省科学研究費
災害時において高齢者・障害者等の特に配慮が必要となる者に対して適切な医療・福祉サービスを提供するため	尾島 俊之	健康社会医学	¥3,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
プラダー・ウィリ症候群における診療ガイドラインの作成	緒方 勤	小児科学	¥4,900,000	補 委	厚生労働省科学研究費
ビッグデータからの機械学習による前立腺癌小線源療法の予後予測法の開発と均てん化への応用	中村 和正	放射線腫瘍学	¥9,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
がんの医療提供体制および医療品質の国際比較：高齢者がん医療の質向上に向けた医療体制の整備	今野 弘之	－	¥880,000	補 委	厚生労働省科学研究費
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究	渡邉 裕司	－	¥300,000	補 委	厚生労働省科学研究費
遺伝性白質疾患・知的障害をきたす疾患の診断・治療・研究システムの構築	才津 浩智	医化学	¥600,000	補 委	厚生労働省科学研究費
母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	¥300,000	補 委	厚生労働省科学研究費
新旧（1980-2020年）のライフスタイルからみた国民代表集団大規模コホート研究：NIPPON	尾島 俊之	健康社会医学	¥200,000	補 委	厚生労働省科学研究費
包括的支援体制構築に向けた市町村保健センターと他分野の連携に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	¥100,000	補 委	厚生労働省科学研究費
麻薬・向精神薬、法規制植物等の規制薬物の鑑別等に関する研究	長谷川 弘太郎	法医学	¥650,000	補 委	厚生労働省科学研究費
びまん性肺疾患に関する調査研究	須田 隆文	内科学第二	¥300,000	補 委	厚生労働省科学研究費
肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究	小林 良正	内科学第二	¥500,000	補 委	厚生労働省科学研究費
職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向け	小林 良正	内科学第二	¥200,000	補 委	厚生労働省科学研究費
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	松山 幸弘	内科学第二	¥250,000	補 委	厚生労働省科学研究費
難治性聴覚障害に関する調査研究	中西 啓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥500,000	補 委	厚生労働省科学研究費
先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究	緒方 勤	小児科学	¥800,000	補 委	厚生労働省科学研究費
ライソゾーム病（ファブリ病含む）に関する調査研究	福田 冬季子	小児科学	¥500,000	補 委	厚生労働省科学研究費
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	沖 隆	地域家庭医療学	¥200,000	補 委	厚生労働省科学研究費
地域・職域連携の推進による生活習慣病予防等に関する研究	巽 あさみ	地域看護学講座 公衆衛生看護学	¥500,000	補 委	厚生労働省科学研究費
発達障害の原因、疫学に関する情報のデータベース構築のための研究	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	¥500,000	補 委	厚生労働省科学研究費
データの利活用も見据えた標準規格策定の方向性に関する研究	木村 通男	医療情報部	¥1,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究	川原 央好	小児外科	¥100,000	補 委	厚生労働省科学研究費
効率的な治験の実施に資するGCPの運用等に関する研究	渡邉 裕司	－	¥2,000,004	補 委	日本医療研究開発機構

特発性間質性肺炎の診断精度向上とエビデンス創出のためのクラウド型統合データベースとインタラクティブ診断システムの開発に関する研究	須田　隆文	内科学第二	¥6,406,112	補委	日本医療研究開発機構
モチベーションの脳機能イメージング	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ	¥20,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳幼児期早期の発達遅滞に関する、認知機能評価と脳MRIによる大規模追跡研究	武井　教使	子どものこころの発達研究センター	¥2,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症に共通する中間表現型と発症モデルの特定	土屋　賢治	子どものこころの発達研究センター	¥2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
DNA修復機構を標的とする分子標的画像法の開発－放射線治療効果予測を目指して－	間賀田　泰寛	分子病態イメージング	¥3,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
フェムト秒レーザーを用いた時間分解計測による生体光学特性値の推定	星　詳子	生体医用光学	¥5,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
世界初の機能亢進型GNAS生殖細胞変異の同定と新規GNAS機能低下発症機序の解明	緒方　勤	小児科学	¥4,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
皮膚と消化管に共通発現するスプラパシンの欠損が導く内因性アトピー性皮膚炎の解明	戸倉　新樹	皮膚科学	¥2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病における病因物質と保護性神経炎症・神経生存の生体画像化と治療戦略	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ	¥3,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
セロトニン神経系トリプルトレーサーPETによる双極性／単極性うつ病の鑑別法の検討	山末　英典	精神医学	¥7,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント分子阻害を利用した細胞内寄生菌感染に対する新規ワクチンの開発	須田　隆文	内科学第二	¥5,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ユビキチンリガーゼSCRAPPERが調節するシナプス蛋白質の超解像イメージング	矢尾　育子	光イメージング研究室	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
赤血球不規則抗体陽性例に対する抗原陽性輸血の実態と溶血性副作用解析システムの構築	竹下　明裕	輸血・細胞治療部	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロサテライト不安定性SGO1変異による大腸がんの染色体不安定性誘導効果	岩泉　守哉	臨床検査医学	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性心筋症における心筋インスリン抵抗性と左室拡張障害の関連性	早乙女　雅夫	第三内科	¥100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
喘息肺における濾胞性ヘルパーT細胞の分化誘導の仕組みと喘息病態での役割の解明	古橋　一樹	内科学第二	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ex vivo培養増殖で得た皮膚浸潤T細胞による薬疹の原因薬剤同定法の確立	藤山　俊晴	皮膚科	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の脳内α7ニコチン様アセチルコリン受容体:PETによる研究	和久田　智靖	精神医学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経性無食欲症の脳内α7ニコチン受容体の症候学的検討	横倉　正倫	精神医学	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規リンパシンチグラフィックパラメーターに基づく非侵襲的皮膚癌転移診断法の開発	藤原　雅雄	形成外科	¥400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
門脈塞栓術後肝再生への脂質の関与	坂口　孝宣	外科学第二	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臨床応用可能な経食道運動誘発電位の確立	椎谷　紀彦	外科学第一	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非ウイルス的遺伝子導入法による自殺遺伝子幹細胞療法の開発とグリオーマ治療への応用	鮫島　哲朗	脳神経外科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳腫瘍に対する間葉系幹細胞を用いた治療研究	天野　慎士	脳神経外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
セロトニン神経に着目したパーキンソン病での視床下核刺激の歩行・精神機能への効果	野崎　孝雄	脳神経外科	¥100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
光テクノロジーを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発	土井　松幸	集中治療部	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるエピゲノムリプログラミング調節機構の解明	峯田　周幸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
斜視手術が眼球に与える影響に関する研究	佐藤　美保	眼科学	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

テーラーメード医療に向けた先天性視覚障害患者に対する診断プログラム開発と臨床応用	細野　克博	眼科学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超小型近赤外線分光計測装置を用いた救急室と災害現場での傷病者評価	齊藤　岳児	救急部	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
携帯型e-ポートフォリオを活用した臨床実習カリキュラムの開発	五十嵐　寛	臨床医学教育学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リハビリテーション効果向上に資する感情調整と認知機能の相互メカニズムの解明	大星　有美	生体機能イメージング研究室	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ADHDの親子中間表現型(認知,脳画像)の特定及び子への行動特性移行に関する研究	原田　妙子	子どものこころの発達研究センター	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出生コホートを用いた乳幼児期の睡眠と神経発達との関連の検証	奥村　明美	子どものこころの発達研究センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
いじめと不登校に関する縦断的学校調査	西村　倫子	子どものこころの発達研究センター	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳磁計を用いた自閉スペクトラム症における「許し」の脳内基盤の解明	平石　博敏	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
輻射輸送方程式の解析解	町田　学	生体医用光学	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者における薬物代謝酵素の活性マーカーを用いたオピオイドの体内動態予測の評価	内藤　隆文	薬剤部	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺高血圧症新規治療薬の血中濃度測定系の確立とTDMの実用化に向けた研究	小田切　圭一	臨床薬理学	¥400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
薬物分解エステラーゼPON3の遺伝子多型と薬物動態に関する臨床薬理学的検討	渡邉　裕司	-	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
上皮間葉転換遺伝子データより見出された遺伝子の機能解析及び薬剤感受性に関する検討	山出　美穂子	第一内科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
S1PR2が原発性胆汁性胆管炎の疾患特異性と病態に及ぼす影響の解明と治療への応用	川田　一仁	第二内科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺障害・肺線維化における血管内皮細胞と線維芽細胞の相互作用	乾　直輝	臨床薬理学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
結核菌のハイブリッドエピトープ長鎖ペプチドを用いた新規ナノ粒子ワクチンの開発	榎本　紀之	保健管理センター	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎臓内RASの日内変動における肝臓由来AGTの糸球体濾過圧の関与	大橋　温	卒後教育センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎生期の低栄養環境による精巣機能障害の発症機序の解明	藤澤　泰子	小児科	¥450,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
毛包の免疫寛容とその破綻における免疫チェックポイントPD-1/PD-L1の関わり	伊藤　泰介	皮膚科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患におけるDysbiosisと腸内細菌代謝産物が発癌に与える影響の解析	倉地　清隆	第二外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌神経浸潤を中心とした癌微小環境における脂質合成・代謝機構の解析	森田　剛文	第二外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔細菌による出血性脳疾患の病態生理解明	外村　和也	臨床医学教育学	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
植物性エストロゲンによる脳動脈瘤形成・破裂予防の研究	平松　久弥	脳神経外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HSVtk遺伝子導入Muse細胞を用いた膠芽腫治療戦略と生体モニタリングの開発	山崎　友裕	脳神経外科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
核磁気共鳴エラストグラフィー と走査型超音波顕微鏡による頭蓋内腫瘍の弾性率解析	小泉　慎一郎	脳神経外科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
骨粗鬆症性椎体骨折・脊柱変形によるロコモティブシンドロームへの影響に関する調査	戸川　大輔	整形外科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヘパリン/ヘパラン硫酸―細胞内シグナル伝達系を介する絨毛細胞の遊走制御機構	杉村　基	産婦人科家庭医療学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自然免疫応答を介した蝸牛内炎症の難聴発症における役割および病態の解明	中西　啓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

頭頸部癌におけるニュートリエピジェネティックス解析	大和谷　崇	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
わが国の希少・未診断眼疾患患者に対する地域網羅的な診療体制の構築と診断法の開発	堀田　喜裕	眼科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性外眼筋疾患の簡易診断法の開発とデータベース構築	彦谷　明子	眼科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ADHD児の社会的機能に影響を与える予測因子の探索的検討	中原　竜治	子どものこころの発達研究センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経性やせ症の治療にピアサポーターが与える効果とピアサポーター自身の回復について	望月　洋介	精神科神経科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PACを用いた神経再生の検討	大村　威夫	整形外科	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自己免疫疾患根治を可能とする革新的DDS創薬	清水　広介	分子病態ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者における神経障害性疼痛治療薬の鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築	川上　純一	薬剤部	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
LIX1L蛋白質発現癌細胞でのRNA翻訳伸長反応制御による標的治療薬開発研究	中村　悟己	腫瘍病理学	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
川崎病後の動脈硬化進展に関する冠動脈先端画像法とマルチバイオマーカーとの融合研究	石川　貴充	周産母子センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Aryl Hydrocarbon Receptorを介した小腸粘膜防御機構の制御	杉本　健	内科学第一	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肥大型心筋症の病因解明と新規薬物療法の開発に向けた研究	前川　裕一郎	内科学第三	¥2,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オートファジーを制御するmicroRNAを用いたポンペ病骨格筋の治療戦略	福田　冬季子	小児科学	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リンパ浮腫に対するインドシアニングリーン蛍光リンパ管造影検査法の確立	斉藤　貴明	第二外科	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
破裂予防薬や予測法の開発に向けた腹部大動脈瘤壁の脈管新生と刷り応力の関連性の検討	犬塚　和徳	第二外科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
熱中症における血管内皮障害とその治療法の探索	中島　芳樹	麻酔・蘇生学	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
障害を受けた灌流下培養血管内皮細胞に高血糖、高酸素が及ぼす影響	小幡　由佳子	集中治療部	¥3,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン病モデルラットでの視床下核と淡蒼球刺激によるドパミン放出のPET研究	杉山　憲嗣	脳神経外科学	¥2,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
視床下核刺激のパーキンソン病モデルサルに対する微細運動改善効果は薬剤に勝るか	浅川　哲也	脳神経外科学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CCKBRの神経再生における役割	大和　雄	整形外科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌のドセタキセルに対する耐性獲得機構の解明と新規治療法の開発	三宅　秀明	泌尿器科学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
4D PC-VIPRを用いたロボット支援下腎部分切除術時の腎動脈客観的流速解析	本山　大輔	泌尿器科	¥2,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
羊水塞栓症の病態解明に向けた羊水胎児成分と母体の反応系に関する基礎的研究	田村　直顕	産婦人科学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
指接着型胎児オキシメーターと胎児心拍数モニタリングを併用した新規分娩管理法	内田　季之	産科婦人科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精子運動活性化と受精率を向上させる糖転移酵素である新規薬剤の開発	柴田　俊章	産科婦人科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸部上皮内病変に対する日帰り光線力学療法(PDT)の基礎的・臨床的研究	村上　浩雄	産科婦人科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
分子生物学的手法を用いた口腔癌切除後術中断端評価方法の確立	岡村　純	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規に発見した加齢黄斑変性責任遺伝子PANK4の機能解析と発症メカニズムの追究	大石　健太郎	光ゲノム医学研究室	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

妊娠糖尿病既往のある女性の分娩後の糖尿病発症を予防するチーム医療のあり方	安田　孝子	臨床看護学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
急性腎障害後に持続するサルコペニアの成因および治療法の解明	加藤　明彦	血液浄化療法部	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
組織線維化の非侵襲的診断法の開発	間賀田　泰寛	分子病態ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
妊娠維持に有効な腸内、膣内および子宮内腔細菌叢の同定	安立　匡志	産婦人科学	¥2,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高等教育機関における自閉症スペクトラム障害への合理的配慮提供に関する挑戦的研究	桑原　斉	子どものこころの発達研究センター	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
学校調査に基づくいじめ被害生徒のメンタルヘルスー自殺念慮を中心にー	武井　教使	子どものこころの発達研究センター	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹部大動脈瘤術後2型エンドリークに対する血行動態学的予後予測因子の探索的研究	海野　直樹	第二外科	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎盤病理所見と乳幼時期の発育・発達の比較検討ー成人病発症予知マーカーの探索ー	伊東　宏晃	周産母子センター	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害児の包括的症状評価と適応行動に基づく介入プログラムの開発	大隅　香苗	児童青年期精神医学	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術後患者におけるデクスメデトミジンの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明	八木　達也	薬剤部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肥満による重症喘息/難治性喘息の新規治療法の開発	鈴木　勇三	第二内科	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
うつ病モデルにおける脳糖代謝異常のメカニズム解明	亀野　陽亮	精神科神経科	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アミノレブリン酸を用いたがん治療の個別化を可能にするPET画像法の開発研究	鈴木　千恵	分子病態イメージング	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CD8陽性リンパ球による絨毛炎の病態解析	古田　直美	周産母子センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎生期低栄養後の肥満発症リスクの低減を目指した新たな介入方法の開発	幸村　友季子	産婦人科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるリキッドバイオプシーによるエピジェネティック解析	遠藤　志織	耳鼻咽喉科	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
36℃低体温法の心筋虚血再灌流障害保護作用：水素によるさらなるROSの制御	川島　信吾	麻酔・蘇生学	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
裂手裂足症を招く新規疾患成立機序の解明	永田　絵子	臨床研究管理センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
トキシコキネティクスに着目した第3世代アゾール系抗真菌薬の投与設計法の確立	山田　尚広	薬剤部	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
不規則抗体が関連する遅発性溶血性輸血副作用の真の発生頻度とその原因因子の解析	藤原　晴美	輸血・細胞治療部	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
拒食症の改善に伴う脳内糖代謝とデフォルトモードネットワークの変化：PETとMRI	栗田　大輔	精神医学	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂質解析に基づく大腸癌抗癌剤耐性機序の解明	平出　貴乗	臨床腫瘍学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるRNAメチル化修飾	望月　大極	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
中咽頭癌個別化医療のためのクリニカルシーケンス導入の試み	今井　篤志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
エイコサペンタエン酸を用いた二次性リンパ浮腫に対する薬物治療法の開発	佐野　真規	第二外科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌早期診断に向けたMRエラストグラフィによる膵弾性率測定手法の新戦略	伊東　洋平	放射線診断学・核医学	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マルチモダリティ脳画像マーカーによる軽症大うつ病の客観的治療法選択の実現に向けて	鈴木　峻介	精神科神経科	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
母の産後うつと児のアレキシサイミア傾向の関連の解明	崔　多美	子どものこころの発達研究センター	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

小児肺動脈性肺高血圧症治療薬における母集団薬物動態解析	袴田　晃央	臨床薬理学	¥1,900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
多角的なプロテオーム解析による特発性間質性肺炎の分子発現解明と臨床応用	穂積　宏尚	内科学第二	¥1,000,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
コレシストキニンによる乾癬の病態発現制御機序の解明	青島　正浩	皮膚科	¥2,200,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
The mechanism of intravascular lymphoma	糟谷　啓	皮膚科学	¥1,200,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
食物アレルギーの耐性獲得と免疫グロブリンの親和性成熟	夏目　統	小児科学	¥1,500,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
人工心肺による脳機能障害の予防法：水素ガスによる予後改善効果の検証	大橋　雅彦	集中治療部	¥1,400,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
凝固カスケード制御による頭部外傷後の肺障害に対する新規治療戦略の開発	安井　秀樹	内科学第二	¥1,100,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
UCP4発現誘導による脳虚血耐性獲得メカニズムの解明と新たな脳梗塞治療法への挑戦	福司　康子	イノベーション光医学研究室	¥600,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
上斜筋麻痺における下直筋後転術の治療効果に影響を与える因子に関する検討	古森　美和	眼科	¥1,900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
胃がん腹膜播種に対するトラスツズマブ腹腔内直接投与による新規治療戦略の開発	加藤　真也	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者におけるプレガバリンの血中動態と中枢症状発現との関係解析	吉川　望美	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
ベバシズマブ投与における高血圧発症と効果予測の関連性および血圧変動要因の解明	三浦　基靖	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
高温逆相HPLC蛍光法による血清中ペムブロリズマブ濃度測定法の開発	白神　霞	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
トラマドールと主代謝物の血中動態と臨床効果に及ぼす薬物代謝酵素の遺伝子変異の影響	田中　達也	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
ロチゴチン経皮吸収製剤の薬物動態・薬効に及ぼす個人差要因の解明	田中　紀章	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
定量的標的プロテオミクスを用いた迅速かつ簡便な血中ニボルマブ絶対濃度測定法の開発	阿部　一樹	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部がん患者における可溶性EGFR濃度とセツキシマブの薬効・副作用との関係解析	柴田　海斗	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
がん悪液質患者におけるmiRNAの発現変動とオキシコドンの体内動態との関係解明	佐藤　聖	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
新規プロテアソーム阻害薬の薬物動態の解明による治療の最適化	大澤　隆志	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチ患者におけるタクロリムスの体内動態および薬効の個人差要因の解析	大城　隼也	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
デノスマブの体内動態に血清イムノグロブリンとRANKLが及ぼす影響の検討	志田　拓顕	薬剤部	¥530,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS－1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験（POTENT）	小倉　廣之	イノベーション光医学研究室	¥0	補 委	(公財)パブリックヘルスリサーチセンター
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	山本　清二	イノベーション光医学研究室	¥33,408,700	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討	難波　宏樹	脳神経外科学講座	¥129,600	補 委	公益財団法人循環器病研究振興財団
成育希少疾患の症例登録と遺伝学的診断に関する研究	緒方　勤	小児科学講座	¥150,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
保存期慢性腎臓病患者を対象とした臨床研究－ダルベポエチン アルファ製剤低反応に関する検討－（BRIGHTEN）	安田　日出夫	第一内科	¥216,000	補 委	公益財団法人先端医療振興財団
低リスク前立腺癌患者を対象とした低用量クロルマジノン酢酸エステルのアクティブサーベイランス継続率に対する効果を検討する多施設共同、プラセボ対照、無作為化二重盲検群間比較試験	杉山　貴之	泌尿器科学講座	¥0	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
International Study for Treatment of Standard Risk Childhood Relapsed ALL 2010(IntReALL SR 2010) 第一再発小児急性リンパ性白血病標準リスク群に対する第Ⅲ相国際共同臨床研究	坂口　公祥	小児科学講座	¥0	補 委	国立大学法人三重大学医学部附属病院

静脈血栓塞栓症前向き追跡研究	海野　直樹	外科学第二講座	¥0	補 委	国立大学法人三重大学医学部附属病院
急性脊髄損傷患者に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いたランダム化、プラセボ対照、二重盲検並行群間比較試験第III相試験	松山　幸弘	整形外科学講座	¥713,000	補 委	公益社団法人日本医師会
FDG-PETによるアルツハイマー病の診断に関する多施設共同研究-SDAF-PET-	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	¥450,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発	土屋　賢治	子どものこころの発達研究センター	¥6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
光による脂質の同定制御観察技術すなわちオプトリピドミクスの創生	瀬藤　光利	細胞分子解剖学講座	¥15,868,320	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
光による脂質の同定制御観察技術すなわちオプトリピドミクスの創生	岡崎　茂俊	医学分光応用寄附研究室	¥7,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	¥7,644,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
タウを標的とする新規画像診断法と治療法の研究開発コンソーシアム構築	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	¥5,850,000	補 委	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
全国のがんの遺伝カウンセリング実施施設の連携による遺伝性腫瘍の登録と追跡、解析拠点構築等に関する実証的研究	椙村　春彦	腫瘍病理学講座	¥1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
認知症「生活支障(トラブル)」の発症機序と対応に関する研究	鈴木　みずえ	臨床看護学講座	¥300,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	¥1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長
新規オキシトシン製剤を用いた自閉スペクトラム症の革新的治療法の開発と治療効果予測技術の開発、および発症とその改善効果発現のメカニズム解明に基づく次世代治療薬シーズの創出	山末　英典	精神医学講座	¥27,006,821	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明	山末　英典	精神医学講座	¥300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
三次元像フローサイトメーター基盤技術の開発	岡崎　茂俊	医学分光応用寄附研究室	¥3,260,400	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SGA性低身長に対する遺伝子診断システムの開発と遺伝学的原因に基く身長予後および治療法の検討	緒方　勤	小児科学講座	¥1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
遺伝解析とヒトiPS細胞由来視神経細胞を用いた小児の視神経障害の病態と治療の研究	堀田　喜裕	眼科学講座	¥1,000,000	補 委	★国立研究開発法人国立成育医療研究センター
SS-MIXストレージを利用した、臨床研究の副作用情報等の報告手法に関する研究	木村　通男	医療情報部	¥12,300,000	補 委	★国立研究開発法人日本医療研究開発機構
静脈血栓塞栓症における非ビタミンK阻害経口抗凝固薬治療の前向き追跡研究	海野　直樹	外科学第二講座	¥0	補 委	国立大学法人三重大学医学部附属病院
自閉スペクトラム症中核症状に対する初の治療薬実用化のための医師主導多施設治験	山末　英典	精神医学講座	¥77,922,998	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中間周波における神経作用(痛覚閾値)の調査	田中　悟志	総合人間科学講座心理学	¥12,252,500	補 委	総務省
NanoSuit®法を用いた電子顕微鏡による、生きたまま濡れたままの生物検体の検査技術の事業化	河崎　秀陽	ナノスーツ開発研究部	¥37,739,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
スマート治療室における患者情報統合モニター上にデータ表示可能な、外科医の指先や鏡視下手術鉗子ならびにロボットアーム先端に装着可能な小型組織オキシメーター温度センサーの開発	海野　直樹	外科学第二講座	¥11,618,301	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
JFMC49-1601-C5(EPOC2 study) 食道癌患者へのDCF療法時における成分栄養剤の口腔粘膜炎抑制作用の検討	菊池　寛利	外科学第二講座	¥0	補 委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
質量顕微鏡法を用いた新しい薬物動態解析及び創薬標的探索事業	瀬藤　光利	細胞分子解剖学	¥38,308,400	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節を指標としたリンパ節転移診断と個別化手術の有用性に関する臨床試験	竹内　裕也	外科学第二講座	¥572,508	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児の視機能に対するICTの影響に関する研究	佐藤　美保	眼科学	¥300,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
先天性横隔膜ヘルニアにおける遺伝的要因の探索	緒方　勤	小児科学講座	¥250,000	補 委	★国立研究開発法人国立成育医療研究センター
発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ	山末　英典	精神医学講座	¥1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業（再生医療分野）	松山　幸弘	整形外科学	¥3,000,000	補 委	国立医薬品食品衛生研究所
がん細胞特異的に発現するRNA結合蛋白質を標的としたがん治療薬の探索	椙村　春彦	腫瘍病理学講座	¥6,699,990	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高リスクER陽性乳がんの内分泌療法耐性機序解明に基づく診断法と薬物療法の開発	北川　雅敏	分子生物学講座	¥2,860,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再発危険因子を有するStage II大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究（JFMC46-1201）	倉地　清隆	外科学第二	¥108,000	補 委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
湿温度コントロールにより正確な微粒子の定量を可能とする静電分注パターニング装置開発	河崎　秀陽	ナノスーツ開発研究部	¥5,000,000	補 委	公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構
避難・緊急活動支援統合システムの研究開発 研究題目：保健医療活動支援の需要算出・最適供給技術の研究開発	尾島　俊之	健康社会医学	¥3,000,000	補 委	国立研究開発法人防災科学技術研究所
				補 委	

計199件

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入するこ

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Sugimoto K,	内科学第一	Assessment of Long-Term Efficacy and Safety of Adalimumab in Patients with Ulcerative Colitis:	Results from a 6-Year Real-World Clinical Practice. Dig Dis 37: 11-20, 2019.	Original Article
2	Takano R,	内科学第一	Evaluating mucosal healing using colon capsule endoscopy predicts outcome in patients with ulcerative colitis in clinical remission.	World J Clin Cases 6: 952-960, 2018.	Original Article
3	Mori T,	内科学第一	Prevalence of elevated microsatellite alterations at selected tetranucleotide repeats in pancreatic ductal adenocarcinoma.	PLoS One 13: e0208557, 2018.	Original Article
4	Suzuki T,	内科学第一	Comparison of effect of an increased dosage of vonoprazan versus vonoprazan plus lafutidine on gastric acid inhibition and serum gastrin.	Eur J Clin Pharmacol 74: 45-52, 2018.	Original Article
5	Kagami T,	内科学第一	High expression level of CD44v8-10 in cancer stem-like cells is associated with poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma patients treated with chemoradiotherapy	Oncotarget 79 (9): 3487688, 2018.	Original Article
6	Kagami T,	内科学第一	Comparative Study of Effects of Vonoprazan and Esomeprazole on Antiplatelet Function of Clopidogrel or Prasugrel in Relation to CYP2C19 Genotype.	Clin Pharmacol Ther 103: 906-913, 2018.	Original Article
7	Fujikura T,	内科学第一	MDM2 inhibitorameliorates cisplatin-induced nephropathy via NFκB signal inhibition.	Pharmacol Res Perspect. 2018 Dec 13;7(1):e00450	Original Article
8	Matsuyama T,	内科学第一	The Relationship between the Intrarenal Dopamine System and Intrarenal Renin-angiotensin System Depending on the Renal Function.	Intern Med.;57(22):3241-3247, 2018	Original Article

9	Uotani T,	内科学第一	Changes of tight junction and interleukin-8 expression using a human gastroid monolayer model of Helicobacter pylori infection.	Helicobacter. 2019 Apr 5 Epub ahead of print	Original Article
10	Nishimoto K,	内科学第二	The prognostic significance of pneumothorax in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Respirology. 2018 May;23(5):519-525. doi: 10.1111/resp.13219. Epub 2017 Nov 12. PubMed PMID: 29130562.	Original Article
11	Kato S,	内科学第二	Neutrophil gelatinase-associated lipocalin in patients with sarcoidosis.	Respir Med. 2018 May;138S:S20-S23. doi: 10.1016/j.rmed.2018.01.004. Epub 2018 Jan 11. PubMed PMID: 29373174.	Original Article
12	Enomoto Y,	内科学第二	Podoplanin-positive myofibroblasts: a pathological hallmark of pleuroparenchymal fibroelastosis.	Histopathology. 2018Jun;72(7):1209-1215. doi: 10.1111/his.13494. Epub 2018 Mar 25. PubMed PMID: 29468722.	Original Article
13	Yoshimura K,	内科学第二	Heterogeneous MET gene copy number and EGFR mutation elicit discordant responses to crizotinib between primary and metastatic lesions in erlotinib-resistant lung adenocarcinoma.	Lung Cancer. 2018 Oct;124:317-319. doi: 10.1016/j.lungcan.2018.03.016. Epub 2018 Mar 17. PubMed PMID: 29573824.	Original Article
14	Yoshimura K,	内科学第二	Distinctive characteristics and prognostic significance of interstitial pneumonia with autoimmune features in patients with chronic fibrosing interstitial pneumonia.	Respir Med. 2018 Apr;137:167-175. doi: 10.1016/j.rmed.2018.02.024. Epub 2018 Mar 1. PubMed PMID: 29605201.	Original Article
15	Yoshimura K,	内科学第二	Utility of serum Aspergillus-galactomannan antigen to evaluate the risk of severe acute exacerbation in chronic obstructive pulmonary disease.	PLoS One. 2018 Jun 5;13(6):e0198479. doi: 10.1371/journal.pone.0198479. eCollection 2018. PubMed PMID: 29870550; PubMed Central PMCID: PMC5988315.	Original Article
16	Enomoto N,	内科学第二	Prognostic evaluation of serum ferritin in acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis.	Clin Respir J. 2018 Aug;12(8):2378-2389. doi: 10.1111/crj.12918. PubMed PMID: 29873202.	Original Article
17	Yasui H,	内科学第二	Low-dose Fluticasone Propionate in Combination With Salmeterol in Patients With Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med. 2018 May 7;12:1179548418771702. doi: 10.1177/1179548418771702. eCollection 2018.	Original Article

18	Nishimoto K,	内科学第二	Switch maintenance therapy with docetaxel and bevacizumab after induction therapy with cisplatin, pemetrexed, and bevacizumab in advanced non-squamous non-small cell lung cancer:	a phase II study. Med Oncol. 2018 Jun 16;35(7):108. doi:10.1007/s12032-018-1172-x. PubMed PMID: 29909581.	Original Article
19	Hozumi H,	内科学第二	Clinical significance of myeloperoxidase-anti-neutrophil cytoplasmic antibody in idiopathic interstitial pneumonias.	PLoS One. 2018 Jun 21;13(6):e0199659. doi:10.1371/journal.pone.0199659. eCollection 2018. PubMed PMID: 29928060; PubMed Central PMCID:	Original Article
20	Kato S,	内科学第二	Changes in pulmonary endothelial cell properties during bleomycin-induced pulmonary fibrosis.	Respir Res. 2018 Jun 26;19(1):127. doi:10.1186/s12931-018-0831-y. PubMed PMID: 29940932; PubMed Central PMCID: PMC6019800.	Original Article
21	Enomoto Y,	内科学第二	TBP2 is secreted from lung myofibroblasts and is a potential biomarker for idiopathic pulmonary fibrosis.	Clin Sci (Lond). 2018 Jul 31;132(14):1565-1580. doi: 10.1042/CS20180435. Print 2018 Jul 31. PubMed PMID: 30006483; PubMed Central PMCID:	Original Article
22	Niwa M,	内科学第二	Differences in airway structural changes assessed by 3-dimensional computed tomography in asthma and asthma-chronic obstructive pulmonary disease overlap.	Ann Allergy Asthma Immunol.2018 Dec;121(6):704-710.e1. doi: 10.1016/j.anai.2018.08.006. Epub 2018 Aug 21. PubMed PMID: 30138669.	Original Article
23	Suzuki Y,	内科学第二	Macrophage mannose receptor, CD206, predict prognosis in patients with pulmonary tuberculosis.	Sci Rep. 2018 Sep 3;8(1):13129. doi: 10.1038/s41598-018-31565-5.PubMed PMID: 30177769; PubMed Central PMCID: PMC6120933.	Original Article
24	Niwa M,	内科学第二	IL-17A Attenuates IFN-λ Expression by Inducing Suppressor of Cytokine Signaling Expression in Airway Epithelium.	J Immunol. 2018 Oct 15;201(8):2392-2402. doi:10.4049/jimmunol.1800147. Epub 2018 Sep 17. PubMed PMID: 30224514.	Original Article
25	Suzuki Y,	内科学第二	Distinct profile and prognostic impact of body composition changes in idiopathic pulmonary fibrosis and idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	Sci Rep. 2018 Sep 19;8(1):14074. doi: 10.1038/s41598-018-32478-z. PubMed PMID: 30232390; PubMed Central PMCID: PMC6145941.	Original Article
26	Enomoto N,	内科学第二	Differences in clinical features of acute exacerbation between connective tissue disease-associated interstitial pneumonia and idiopathic pulmonary fibrosis.	Chron Respir Dis. 2019 Jan Dec;16:1479972318809476. doi: 10.1177/1479972318809476. Epub 2018 Oct 31.PubMed PMID:	Original Article

27	Ozawa Y,	内科学第二	Preexisting Interstitial Lung Disease and Lung Injury Associated with Irinotecan in Patients with Neoplasms.	Anticancer Res. 2018 Oct;38(10):5937-5941. doi: 10.21873/anticanres.12939. PubMed PMID: 30275222.	Original Article
28	Ozawa Y,	内科学第二	Impact of early inflammatory cytokine elevation after commencement of PD-1 inhibitors to predict efficacy in patients with non-small cell lung cancer.	Med Oncol. 2019 Mar 1;36(4):33. doi: 10.1007/s12032-019-1255-3. PubMed PMID: 30825015.	Original Article
29	Shirai T,	内科学第二	Combined Assessment of Serum Periostin and YKL-40 May Identify Asthma-COPD Overlap.	J Allergy Clin Immunol Pract. 2019 Jan;7(1):134-145.e1. doi: 10.1016/j.jaip.2018.06.015. Epub 2018 Jul 6. PubMed PMID: 29981861.	Original Article
30	Saigusa M,	内科学第二	Efficacy and Safety of Amrubicin in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients Beyond Third-Line Therapy.	Oncol Res Treat. 2019;42(1-2):52-56. doi: 10.1159/000493199. Epub 2018 Dec 12. PubMed PMID: 30537755.	Original Article
31	Akamatsu T,	内科学第二	Usefulness of fractional exhaled nitric oxide-guided treatment in patients with asthma-COPD overlap.	Open J Respir Dis 8:1-12. 2018	Original Article
32	Chida T,	内科学第二	Rapid Changes in Serum Lipid Profiles during Combination Therapy with Daclatasvir and Asunaprevir in Patients Infected with Hepatitis C Virus Genotype 1b.	Gut Liver. 2018 Mar 15;12(2):201-207.	Original Article
33	Junichi Kaneko	内科学第二	Clinical characteristics and risk factors for stent-stone complex formation following biliary plastic stent placement in patients with common bile duct stones.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences. https://doi.org/10.1002/jhbp.584、2018	Original Article
34	Ohba K,	内科学第二	Encapsulated Papillary Thyroid Tumor with Delicate Nuclear Changes and a KRAS Mutation as a Possible Novel Subtype of Borderline Tumor.	J Pathol Transl Med. 53. 136-141. 2019.	Original Article

35	Akita K,	内科学第三	Prognostic significance of repeated brain natriuretic peptide measurements after percutaneous transluminal septal myocardial ablation in patients with drug-refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy:	Open Heart. 2018 May 10;5(1):e000786.	Original Article
36	Tanaka T,	内科学第三	Glycogen synthase kinase-3β opens mitochondrial permeability transition pore through mitochondrial hexokinase II dissociation:	J Physiol Sci. 2018 Nov;68(6):865-871.	Original Article
37	Iguchi K,	内科学第三	Pinacidil, a KATP channel opener, stimulates cardiac Na+/Ca2+ exchanger function through the NO/cGMP/PKG signaling pathway in guinea pig cardiac ventricular myocytes.:	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol. 2019 Mar 27	Original Article
38	Yamasue H*	精神医学	Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder:	A randomized clinical trial. Mol Psychiatry. 2018 Jun 29. doi: 10.1038/s41380-018-0097-2. [Epub ahead of print].	Original Article
39	Shiiya N,	外科学第一	Japanese perspective in surgery for thoracoabdominal aortic aneurysms.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 67:187-19, 2019	Original Article
40	Tsuda K,	外科学第一	Carotid stenosis with impaired brain flow reserve is associated with an increased risk of stroke in on-pump cardiovascular surgery.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 27:75-80, 2018	Original Article
41	Asano Y,	外科学第一	Correction by the skin-to-chest wall distance in near-infrared spectroscopy and assessment of breast cancer responses to neoadjuvant chemotherapy.	Optical Review 26: 111-117, 2019	Original Article
42	Iizuka S,	外科学第一	A risk scoring system for predicting visceral pleural invasion in non-small lung cancer patients.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Mar 19. doi: 10.1007/s11748-019-01101-x	Original Article

43	Takeuch H,	外科学第二	Sentinel node naigation surgery in esophagela cancer,	Ann Gastroenterol Surg, DOI:10.1002/ags3. 12206, 1-7, 2018.08.	Original Article
44	Takeuch H,	外科学第二	Laparoscopic personalized function-preserving gastrectomy with sentinel bode mapping for early-stage gastric cancer.	Journal of Cancer Metastasis and Treatment. DOI: 10.20517/2394-4722.2017.83, 2018.07	Original Article
45	Kawamura T,	外科学第二	Tenascin-C produced by intestinal myofibroblasts promotes colitis-associated cancer developmet through angiogenesis.	Inflamm Bowel Dis 14;25(4):732-741, 2019 Mar.	Original Article
46	Katahashi K,	外科学第二	Flow dynamics of type II endoleaks can determine sac expansion after endovascular aneurysm repair using four-dimensional flow-sensitive magnetic resonance imaging analysis.	J Vasc Surg 2019	Original Article
47	Yata T,	外科学第二	Utility of a Finger-Mounted Tissue Oximeter with Near-Infrared Spectroscopy to Evaluate Limb Ischemia in Patients with Peripheral Arterial Disease.	Ann Vasc Dis. 25;12(1):36-43: 2019 Mar	Original Article
48	Suzuki T,	脳神経外科学	Prevention effect of antiplatelets on aneurysm rupture in a mouse intracranial aneurysm model.	Cerebrovasc Dis 45(3-4): 180-186, 2018	Original Article
49	Nozaki T,	脳神経外科学	Effect of subthalamic deep brain stimulation on upper limb dexterity in patients with Parkinson's disease.	World Neurosurg 115: e206-217, 2018	Original Article
50	Arima H,	整形外科学	Differences in lumbar and pelvic parameters among African American, Caucasian and Asian populations.	Eur Spine J 27(12):2990-2998, 2018.	Original Article
51	Arima H,	整形外科学	Neurologic Comorbidities Predict Proximal Junctional Failure in Adult Spinal Deformity.	Spine Deform 6(5):576-586, 2018.	Original Article

52	Arima H,	整形外科学	et al. Age variation in the minimum clinically important difference in SRS-22r after surgical treatment for adult spinal deformity - A single institution analysis in Japan.	J Orthop Sci 23(1)20-5.2018	Original Article
53	Banno T,	整形外科学	The controlled study of diffuse idiopathic skeletal hyperostosis for the assessment of physical function in elderly populations..	J Orthop Sci 23(6):929-934, 2018.	Original Article
54	Matsuyama Y,	整形外科学	A multicenter, randomized, double-blind, dose-finding study of condoliase in patients with lumbar disc herniation.	J Neurosurg Spine 28(5):499-511, 2018.	Original Article
55	Nishikino S,	整形外科学	Hip arthroscopic Surgery after a Diagnosis of Premature Osteoarthritis of the Hip in Three Unicyclists: A Case Series.	J Orthop Case Rep 8(3):51-54, 2018.	Original Article
56	Ushirozako H,	整形外科学	Transcranial Motor Evoked Potential Monitoring for the Detection of Nerve Root Injury during Adult Spinal Deformity Surgery.	Asian Spine J 12(4):639-647, 2018.	Original Article
57	Yamato Y,	整形外科学	Will a low-dose biplanar radiograph become "gold standard" for three-dimensionalassessment of spinal deformity in patients with adolescent idiopathic scoliosis?.	J Spine Surg 4(2):465-466, 2018.	Original Article
58	Yamato Y,	整形外科学	Treatment strategy for rod fractures following corrective fusion surgery in adult spinal deformity depends on symptoms and local alignment change.	J Neurosurg Spine 29:59-67, 2018.	Original Article
59	Yasuda T,	整形外科学	Effect of position on lumbar lordosis in patients with adult spinal deformity.	J Neurosurg Spine 29(5):530-534, 2018.	Original Article
60	Yoshida G,	整形外科学	Predicting Perioperative Complications in Adult Spinal Deformity Surgery Using a Simple Sliding Scale.	Spine 43(8):562-570, 2018.	Original Article

61	Banno T,	整形外科学	Multi-Rod Constructs Can Increase the Incidence of Iliac Screw Loosening after Surgery for Adult Spinal Deformity.	Asian Spine J 30. doi: 10.31616/asj.2018.0209. [Epub ahead of print],2019.	Original Article
62	Banno T,	整形外科学	The Effect of Paravertebral Muscle on the Maintenance of Upright Posture in Patients With Adult Spinal Deformity.	Spine Deform 7(1):125-131,2019.	Original Article
63	Hanada M,	整形外科学	Investigation of the control of rotational alignment in the tibial component during total knee arthroplasty.	Eur J Orthop Surg Traumatol doi: 10.1007/s00590-019-02427-1. [Epub ahead of print],2019.	Original Article
64	Nishikino S,	整形外科学	Arthroscopic capsular repair using proximal advancement for instability following hip arthroscopic surgery: a case report.	J Hip Preserv Surg 6(1):91-96,2019.	Original Article
65	Nishikino S,	整形外科学	Validation of a new 2.5D radiographic index evaluating acetabular coverage using ACX software.	Hip Int. 2019 Jan 3:1120700018820883. doi: 10.1177/1120700018820883. [Epub ahead of print],2019.	Original Article
66	Ushirozako H,	整形外科学	Impact of shift to the concave side of the C7-center sacral vertical line on de novo degenerative lumbar scoliosis progression in elderly volunteers.	J Orthop Sci pii: S0949-2658(19)30077-6. doi: 10.1016/j.jos.2019.03.007. [Epub ahead of print],2019.	Original Article
67	Ushirozako H,	整形外科学	Impact of total propofol dose during spinal surgery: anesthetic fade on transcranial motor evoked potentials.	J Neurosurg Spine 8:1-9. doi: 10.3171/2018.10.SPINE18322. [Epub ahead of print],2019.	Original Article
68	Ushirozako H,	整形外科学	Weekly Teriparatide Administration and Preoperative Anterior Slippage of the Cranial Vertebra Next to Fusion Segment < 2Mm Promote Osseous Union after Posterior Lumbar Interbody Fusion.	Spine 44(5):E288-E297,2019.	Original Article
69	Yoshida G,	整形外科学	Intraoperative Neuromonitoring During Adult Spinal Deformity Surgery: Alert-Positive Cases for Various Surgical Procedures.	Spine Deform 7(1):132-140,2019.	Original Article

70	Yoshida G,	整形外科学	Minimum Clinically Important Differences in Oswestry Disability Index Domains and Their Impact on Adult Spinal Deformity Surgery.	Asian Spine J 13(1):35-44,2019.	Original Article
71	Nakazawa S,	皮膚科学	Dyshidrosiform palmoplantar pemphigoid with low-titer autoantibodies against BP180 NC16A.	J Cutan Immunol Allergy 1 (1) : 27-30 , 2018	Original Article
72	Suzuki T,	皮膚科学	The Vitamin D3 analogue calcipotriol suppresses CpG-activated TLR9-MyD88 signalling in murine plasmacytoid dendritic cells.	Clin Exp Dermatol 43 (4) : 445-448, 2018	Original Article
73	Kitano S,	皮膚科学	Isolated Adrenocorticotropic Hormone Deficiency in Melanoma Patients Treated with Nivolumab.	Acta Derm Venereol 98 : 704-705, 2018	Original Article
74	Masuda Y,	皮膚科学	Mogamulizumab-induced phosensitivity in patients with mycosis fungoides and other T cell neoplasms.	J Eur Acad Dermatol Venereol 32 (9) : 1456-1460 , 2018	Original Article
75	Kasuya A,	皮膚科学	M2 macrophages promote wound-induced hair neogenesis.	J Dermatol Sci 91 (3) : 250-255 , 2018	Original Article
76	Fukuchi K,	皮膚科学	Induction of plasmablasts by follicular helper T cell-CXCL13 axis upon occurrence of herpes zoster.	Clin Immunol 195 : 93-100 , 2018	Original Article
77	Shimauchi T,	皮膚科学	Dendritic cells promote the spread of human T-cell leukemia virus type-1 via bidirectional interactions with CD4+ T-cells.	J Invest Dermatol 139 (1) : 157-166 , 2019	Original Article
78	Miyake H,	泌尿器科学	Prognostic significance of time to castration resistance in patients with metastatic castration-sensitive prostate cancer.	Anticancer Res 39:1391-6, 2019.	Original Article

79	Miyake H,	泌尿器科学	Clinical outcomes of 42 renal cell carcinoma patients with metastases solely to the lung who received sorafenib as second-line systemic therapy.	Anticancer Res 39:1067-72, 2019.	Original Article
80	Miyake H,	泌尿器科学	Significance of de ritis (aspartate transaminase/alanine transaminase) ratio as a significant prognostic but not predictive biomarker in japanese patients with metastatic castration-resistant prostate cancer treated with cabazitaxel.	Anticancer Res 38:4179-85, 2018.	Original Article
81	Miyake H,	泌尿器科学	Significance of age in japanese patients receiving sunitinib as first-line systemic therapy for metastatic renal cell carcinoma:	Comparative assessment of efficacy and safety between patients aged <75 and ≥75 years. Anticancer Res 38:3593-9, 2018.	Original Article
82	Miyake H,	泌尿器科学	Oncological outcomes after cytoreductive nephrectomy for patients with metastatic renal cell carcinoma with inferior vena caval tumor thrombus.	Int J Clin Oncol 23:553-8, 2018.	Original Article
83	Miyake H,	泌尿器科学	No significant impact of response to prior androgen receptor-axis-targeted agents on the efficacy of subsequent docetaxel in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.	Int J Clin Oncol 23:576-83, 2018.	Original Article
84	Miyake H,	泌尿器科学	Comparison of alternative androgen receptor-axis-targeted agent (ARATA) and docetaxel as second-line therapy for patients with metastatic castration-resistant prostate cancer with progression after initial ARATA in real-world clinical practice in japan.	Clin Genitourin Cancer 16:219-25, 2018.	Original Article
85	Miyake H,	泌尿器科学	Significance of introduction of alternative dosing schedule for sunitinib during first-line treatment of patients with metastatic renal cell carcinoma.	Med Oncol 35:133, 2018.	Original Article
86	Suzuki T,	泌尿器科学	Isosamidin, an extract of Peucedanum japonicum, inhibits phenylephrine-mediated contractions of the human prostate in vitro.	Phytother Res 32:949-52, 2018.	Original Article

87	Suzuki T,	泌尿器科学	Role of the serotonergic system in urethral continence reflexes during sneezing in rats.	Am J Physiol Renal Physiol 315: F79-F85, 2018.	Original Article
88	Shimizu T,	泌尿器科学	Nerve growth factor-dependent hyperexcitability of capsaicin-sensitive bladder afferent neurons in mice with spinal cord injury.	Exp Physiol 103: 896-904, 2018. ※ equally contributed(3名)	Original Article
89	Hosono K,	眼科学	Molecular diagnosis of 34 Japanese families with Leber congenital amaurosis using targeted next generation sequencing.	Sci Rep 29;8(1):8279, 2018	Original Article
90	Kurata K,	眼科学	Clinical characteristics of a Japanese patient with Bardet-Biedl syndrome caused by BBS10 mutations.	Jpn J Ophthalmol 62(4):458-466, 2018.	Original Article
91	Suzuki H,	眼科学	Changes in conjunctival-scleral thickness after strabismus surgery measured with anterior segment optical coherence tomography..	Jpn J Ophthalmol 62(5):554-559, 2018.	Original Article
92	Kurata K,	眼科学	Clinical and genetic findings of a Japanese patient with RP1-related autosomal recessive retinitis pigmentosa.	Doc Ophthalmol 137:47-56, 2018.	Original Article
93	Hosokawa S,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Clinical analysis of false-negative fine needle aspiration cytology of head and neck cancers.	Postgrad Med 131(2); 151-155, 2019.	Original Article
94	Hosokawa S,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Hyperbaric Oxygen Therapy as Concurrent Treatment with Systemic Steroids for Idiopathic Sudden Sensorineural Hearing Loss:	A Comparison of Three Different Steroid Treatments. Audiol Neurootol 23(3); 145-151, 2018.	Original Article
95	Hosokawa S,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Immunohistochemical localization of megalin and cubilin in the human inner ear.	Brain Res 1701; 153-160, 2018.	Original Article

96	Hosokawa K §,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Immunohistochemical localization of Nrf2 in the human cochlea.	Brain Res 1700; 1-8, 2018. §Both authors contributed equally.	Original Article
97	Hosokawa K §,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Trough-Shaped Audiograms Are Common in Patients with Acoustic Neuroma and Sudden Sensorineural Hearing Loss.	Audiol Neurootol 23(1); 58-62, 2018. §Both authors contributed equally.	Original Article
98	Hosokawa S*,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	The Efficacy of Touch Smear Cytology in the Diagnosis of Salivary Gland Cancers.	J Oral Maxillofac Surg 76(7); 1468.e1-1468.e4, 2018.	Original Article
99	Hosokawa S*,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Photodynamic therapy in patients with head and neck squamous cell carcinoma.	Lasers Surg Med 50 (5); 420-426, 2018.	Original Article
100	Misawa K,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	The neuropeptide genes SST, TAC1, HCRT, NPY, and GAL are powerful epigenetic biomarkers in head and neck cancer:	A site-specific analysis. Clin Epigenetics; 10: 52, 2018	Original Article
101	Misawa K*,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Association of TET3 epigenetic inactivation with head and neck cancer.	Oncotarget; 9(36):24480-24493, 2018	Original Article
102	Misawa K*,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Site-specific epigenetic analysis of the tumor-related genes in head and neck cancer: potential utility as biomarkers for prognosis.	Cancers; 10(1): E27, 2018	Original Article
103	Mochizuki D,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Aberrant epigenetic regulation in head and neck cancer distinct EZH2 overexpression and DNA hypermethylation.	International Journal of Molecular Sciences; 19(12):3707, 2018	Original Article
104	Nakanishi H,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Gradual symmetric progression of DFNA34 hearing loss caused by an NLRP3 mutation and cochlear autoinflammation.	Otol Neurotol 39: e181-e185, 2018.	Original Article

105	Nakanishi H,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Tmc2 expression partially restores auditory function in a mouse model of DFNB7/B11 deafness caused by loss of Tmc1 function.	Sci Rep 14: 12125, 2018.	Original Article
106	Endo S,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	A case of improved hearing with cochlear implantation in Gaucher disease type 1.	Auris Nasus Larynx 45: 603-607, 2018.	Original Article
107	Maho Hayashi,	放射線診断学・核医学	Effect of source-detector distance on the measurement of hemoglobin using near-infrared spectroscopy in breast cancer,	Technology in Cancer Research & Treatment 2019 Jan 1;18: doi: 10.1177/1533033819830411.	Original Article
108	Komatsu T,	放射線腫瘍学	Combined radiotherapy with nivolumab for extracranial metastatic malignant melanoma.	Jpn J Radiol 36:712-718, 2018.	Original Article
109	Nakamura K,	放射線腫瘍学	Patterns of radiotherapy infrastructure in Japan and in other countries with well-developed radiotherapy infrastructures.	Jpn J Clin Oncol 48: 476-479,2018	Original Article
110	Kensuke Kobayashi,	麻酔・蘇生学	Dexmedetomidine preserves the endothelial glycocalyx and improves survival in a rat heatstroke model、	Journal of anesthesia 32 (6), 880-885	Original Article
111	Itoh H,	産婦人科学	Developmental Origins of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD).	Adv Exp Med Biol. 1012: 29-39, 2018.	Original Article
112	Oda T,	産婦人科学	Amniotic fluid as a potent activator of blood coagulation and platelet aggregation:	Study with rotational thromboelastometry. Thromb Res. 172 (2018): 142-149, 2018.	Original Article
113	Uchida T,	産婦人科学	Reevaluation of intrapartum fetal monitoring using fetal oximetry:	A review. J Obstet Gynaecol Res. 2018 Dec; 44(12):2127-2134.	Original Article

114	Kawai K,	産婦人科学	Maternal diaphragmatic hernia during mid-pregnancy	BMJ 2018; 362 doi: https://doi.org/10.1136/bmj.k2688.	Original Article
115	Matsuya OM,	産婦人科学	Leiomyomatosis peritonealis disseminata with aromatase cytochrome P450 expression in a postmenopausal woman:	a case study with literature review. Eur J Gynaecol Oncol 39(5): 838-842, 2018.	Original Article
116	Kawai K,	産婦人科学	Congenital cytomegalovirus infection.	New Engl J Med 379(13): e21 2018.	Original Article
117	Itoh H,	産婦人科学	Multiple causative factors underlie low birthweight.	Science (eLetter : 14 October 2018) http://science.sciencemag.org/content/361/6401/440/tab-e-letters.	Original Article
118	Matsuya-Ogawa M,	産婦人科学	Oncoprotective effects of short chain fatty acids on uterine cervical neoplasia.	Nutr Cancer 5: 1-8, 2019.	Original Article
119	Itoh T,	産婦人科学	Intrauterine fetal and neonatal death between small for date and non-small for date in small for gestational age infants.	Int J Med Sci, 2019.	Original Article
120	Hayashi Y,	歯科口腔外科学	BMP6 expression in the adult rat central nervous system.	J Chem Neuroanat. Jul;98:41-54. 2019	Original Article
121	Hayashi Y,	歯科口腔外科学	Myostatin expression in the adult rat central nervous system.	J Chem Neuroanat. Dec;94:125-138. 2018	Original Article
122	Nakamura M,	臨床検査医学	Efficacy of stress measurements using salivary ultra-weak chemiluminescence.	Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology (in press)	Original Article

123	Ota Y,	臨床検査医学	A rapid and simple detection method for phenotypic antimicrobial resistance in Escherivhia coil by loop-mediated isothermal amplification.	Journal of Medical Microbiology Reserch Article : 1-10 2019.	Original Article
124	Kamiya C,	臨床薬理学	Effect of co-administered inducer or inhibitor on omeprazole pharmacokinetics based on CYP2C19 genotype.	J Pharmacol Sci, S1347-8613(19):30032-30035 doi: 10.1016/j.jphs.2019.03.001, 2019.	Original Article
125	Sakurada R,	臨床薬理学	Calcium Release from Endoplasmic Reiculum Involves Calmodulin-Mediated NADPH Oxidase-Endothelial Cells.	Int.J.Mol.Sci, 20: 1644 doi: 10.3390/ijms20071644, 2019.	Original Article
126	Yasui H,	救急災害医学・救急部	Low-dose Fluticasone Propionate in Combination With Salmeterol in Patients With Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med. 2018 May 7;12:1179548418771702. doi: 10.1177/1179548418771702. eCollection 2018.	Original Article
127	Yasui H,	救急災害医学・救急部	Correlation of the modified Medical Research Council dyspnea scale with airway structure assessed by three-dimensional CT in patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Respir Med. 2019 Jan;146:76-80. doi: 10.1016/j.rmed.2018.11.020. Epub 2018 Dec12. PubMed PMID: 30665522.	Original Article
128	Yoshiaki Takahashi,	救急災害医学・救急部	The potential of leg-foot chest compression as an alternative to conventional hands-on compression during cardiopulmonary resuscitation.	Hong Kong Journal of Emergency Medicine. 26(2): 106-110, 2019.	Original Article
129	Yamada Y,	臨床腫瘍学	S-1 and irinotecan plus bevacizumab versus mFOLFOX6 or CapeOX plus bevacizumab as first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer (TRICOLORE): a randomized, open-label, phase III, noninferiority trial.	Ann Oncol. 2018 Mar 1;29(3):624-631. doi: 10.1093/annonc/mdx816.	Original Article
130	Karayama M,	臨床腫瘍学	Prophylactic aprepitant is better than salvage for carboplatin-based chemotherapy:	a propensity score-matched analysis. Med Oncol. 35(11):139, 2018	Original Article

131	Karayama M,	臨床腫瘍学	Respiratory impedance is correlated with airway narrowing in asthma using three-dimensional computed tomography.	Clin Exp Allergy 48(3):278-287, 2018	Original Article
132	Suzuki K,	児童青年期精神医学	Sensory processing in children with autism spectrum disorder and the mental health of primary caregivers.	Brain Dev. Nov 28. pii: S0387-7604(18)30196-7. 2018.	Original Article
133	Oe S,	長寿運動器疾患教育研究	Cut-off values of and factors associated with a negative influence on Neck Disability Index.	Eur Spine J 27(6):1423-1431, 2018.	Original Article
134	Togawa D,	長寿運動器疾患教育研究	Postoperative Disability After Long Corrective Fusion to the Pelvis in Elderly Patients With Spinal Deformity.	Spine 43(14):E804-E812, 2018.	Original Article
135	Nagata T,	形成外科	Comparison between negative-pressure fixation and film dressing in wound management after tissue expansion:	A randomized controlled trial. Plast Reconstr Surg 142(1):37-41, 2018.	Original Article
136	Mizukami T,	形成外科	Reconstruction of temporal bone defects:	Consideration for use of the submental island flap and temporalis muscle flap. B-ENT	Original Article
137	Ota Y,	検査部	A rapid and simple detection method for phenotypic antimicrobial resistance in Escherichia coli by loop-mediated isothermal amplification.	J Med Microbiol. 68: 169-177, 2019	Original Article
138	Kurita T,	手術部	Intracranial Space-occupying Lesion Inducing Intracranial Hypertension Increases the Encephalographic Effects of Isoflurane in a Swine Model.	J Neurosurg Anesthesiol 2019; 31: 70-5	Original Article
139	Kawashima S,	手術部	Effective Dose of Landiolol, an Ultra-Short-Acting β-Blocker, to Decrease Heart Rate During On-Pump, Beating Coronary Artery Bypass Grafting.	J Cardiothorac Vasc Anesth 2019; Feb 13 [Epub ahead of print]	Original Article

140	Takeshita A,	輸血・細胞治療部	and the Japanese Adult Leukemia Study Group. Tamibarotene maintenance improved relapse-free survival of acute promyelocytic leukemia: a final result of prospective, randomized,	JALSG-APL204 study, Leukemia, 33(2), 358-370, 2019.(doi: 10.1038/s41375-018-0233-7.)	Original Article
141	Ishigaki S,	血液浄化療法部	Impaired endogenous nighttime melatonin secretion relates to intrarenal renin-angiotensin system activation and renal damage in patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol. 23(2): 289-290, 2019	Original Article
142	Ishigaki S,	血液浄化療法部	Melatonin ameliorates intrarenal renin-angiotensin system in a 5/6 nephrectomy rat model.	Clin Exp Nephrol. 22(3): 539-549, 2018.	Original Article
143	Furuta T,	臨床研究管理センター	High incidence of autoimmune gastritis in patients misdiagnosed with two or more failures in H. pylori eradication.	Alimentary Pharmacology and Therapeutics, ;48(3):370-377, 2018.	Original Article
144	Tashiro M,	薬剤部	Influence of cytochrome P450 genotype on the plasma disposition of prochlorperazine metabolites and their relationships with clinical responses in cancer patients.	Ann Clin Biochem 53(3): 385-393, 2018	Original Article
145	Miyadera Y,	薬剤部	Simple LC-MS/MS methods using core-shell octadecylsilyl microparticulate for the quantitation of total and free daptomycin in human plasma.	Ther Drug Monit 40(5): 589-595, 2018	Original Article
146	Shida H,	薬剤部	LC-MS/MS method for denosumab quantitation in human serum with rapid protein digestion using immobilized trypsin.	Bioanalysis 10(18): 1501-1510, 2018	Original Article
147	Tanaka H,	薬剤部	Impact of CYP genotype and inflammatory markers on the plasma concentrations of tramadol and its demethylated metabolites and drug tolerability in cancer patients.	Eur J Clin Pharmacol 74(11): 1461-1469, 2018	Original Article

計147件

（注）1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	二橋文哉、	内科学第二	呼吸不全を呈した加湿器肺3例の臨床的検討.	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 38: 80-3, 2018	Original Article
2	坂野 友啓,	整形外科学	成人脊柱変形において背筋群の萎縮が強い患者では術後矯正損失を生じやすい.	J Spine Res 9(4):858-861, 2018.	Original Article
3	古橋 弘基,	整形外科学	【Hip-Spine-Knee syndrome】THA施行後に脊柱変形矯正固定を行う場合の注意点　脱臼例を踏まえて	整形・災害外科 61(7):829-836, 2018.	Original Article
4	花田 充,	整形外科学	CT-free navigation TKAにおけるインプラント設置誤差の検討.	JOSKAS 43(2):374-375, 2018.	Original Article
5	花田 充,	整形外科学	膝関節外側の変形性変化に影響する因子の画像的検討.	中部整災誌 61(3):533-534, 2018.	Original Article
6	星野 裕信,	整形外科学	変形性膝関節症に対するデュロキセチンの効果.	中部整災誌 61(3):537-538, 2018.	Original Article
7	三原 唯暉,	整形外科学	【しびれ・痛みに対する整形外科診療の進歩】疾患・病態別の診断・治療　腰椎　腰椎後方すべりは姿勢異常を伴う.	別冊整形外科 74:128-131, 2018.	Original Article
8	後迫宏紀:	整形外科学	術前NT-proBNPは大腿近位部骨折術後の心血管系合併症を予測するか.	整形外科 69(13):1371-1373, 2018.	Original Article

9	後迫 宏紀,	整形外科学	高齢検診者における側弯の進行と健康関連QOLとの関係(TOEI study).	J Spine Res 9(7):1213-1216, 2018.	Original Article
10	安田 達也,	整形外科学	腰椎椎間板ヘルニア術後に神経根症状が悪化した症例の検討.	J. Spine Res 9(4):881-884, 2018.	Original Article
11	古橋 弘基,	整形外科学	脚長不等に対して3歳で下腿骨延長術を施行した3例の検討. 日本創外固定・	骨延長学会雑誌 30:53-57,2019.	Original Article
12	花田 充,	整形外科学	高位脛骨骨切り術における脛骨後方傾斜の増加を防ぐための工夫.	JOSKAS 44(1):92-93,2019.	Original Article
13	花田 充,	整形外科学	人工関節置換術における術創辺縁の皮膚細菌contaminationの検討.	日本骨・関節感染症学会雑誌 32:8-10,2019.	Original Article
14	松下雄登,	泌尿器科学	当科におけるHigh risk NMIBC患者の臨床的検討.	泌尿器外科 31:423-424, 2018.	Original Article
15	磯貝正智、	眼科学	視神経低形成に占めるSepto-optic dysplasiaの割合.	眼臨紀 11(5): 391-394, 2018.	Original Article
16	古森美和、	眼科学	上斜筋麻痺に対する僚眼下直筋後転術が上下偏位に与える効果の検討.	日眼会誌 123(1): 45-50, 2019.	Original Article
17	中西啓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	慢性鼓膜縁に対する処置.	JOHNS 35: 112-114, 2019.	Original Article
18	望月大極,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	【わかりやすく伝えるインフォームド・コンセント】喉頭・気管手術におけるインフォームド・コンセント;	気管切開術. JOHNS, 35巻2号, 2019	Original Article
19	今井亮,	麻酔・蘇生学	腹腔鏡下子宮摘出術中に周期的血圧変動を生じた未診断褐色細胞腫の1症例.	麻酔.68(3).299-301.2019	Original Article

20	中山　毅,	産婦人科学	子宮腺筋症合併不妊症におけるサブタイプに基づいたAMH値の臨床的検討	日本エンドメトリオーシス学会会誌 39: 173-176, 2018.	Original Article
21	中山　毅,	産婦人科学	妊娠中の便秘症に対する漢方療法の試み大建中湯および大黄を含有する処方について	産婦人科漢方研究のあゆみ (0913-865X)35: 101-106, 2018.	Original Article
22	池谷和、	児童青年期精神医学	ASDの過剰診断を防ぐために.	精神科. 33:257-261, 2018.	Original Article
23	大江　慎,	長寿運動器疾患教育研究	低カリウム血症による首下がり症候群を発症した1例.	臨整外 53(9):841-845, 2018.	Original Article
24	村林奈緒	生殖周産期医学	不妊治療専門施設に通院する女性の抑うつと不安,	日本周産期メンタルヘルス学会会誌 4(1):61-66, 2018	Original Article
25	水上高秀、	形成外科	四肢弁状創に対するキルティング縫合の有用性	創傷 9(4):121-145, 2018	Original Article
26	藤原雅雄.	形成外科	センチネルリンパ節の画像評価.	Skin Cancer　33(2): 145-7, 2018	Original Article
27	保坂侑里,	輸血・細胞治療部	高校生献血の契機に関する意識調査（第2報）―高校生にとって効果的な献血推進方法とは―,	日本輸血・細胞治療学会誌, 64(4), 608-613, 2018.	Original Article
28	木村通男	医療情報部	人工知能の進展で医師に求められる資質・働き方はどう変わる？,	医療白書2018年版, 47-53, 2018	Original Article
29	秋永智永子	医療安全管理室	ハイリスク妊婦を麻酔科医が事前に把握, 診察することの効果と課題,	分娩と麻酔, 100, 28-31, 2018年	Original Article
30	秋永智永子	医療安全管理室	無痛分娩-患者診察から麻酔説明・同意書取得まで-,	分娩と麻酔, 100, 32-36	Original Article

計30件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 ア　倫理委員会の役割・責務等 イ　倫理委員会の業務 ウ　倫理委員会の運営 エ　倫理委員会における審査 オ　倫理委員会事務局の業務	
③　倫理審査委員会の開催状況	年12回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 ア　利益相反マネジメントの目的・対象・対象者 イ　利益相反マネジメント委員会の設置・審議事項・組織 ウ　利益相反マネジメントのための調査方法 エ　審議、勧告、決定等の手続き オ　臨床研究に関する調査等 カ　研修・啓発活動	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年5回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年14回
・研修の主な内容	

ア　臨床研究の倫理と臨床研究サポート体制 イ　臨床研究法における利益相反管理 ウ　臨床研究に関する法規制と指針 エ　医療機器開発とレギュラトリーサイエンス オ　臨床試験の計画と準備、実施医療機関の組織と運用 カ　被験者の募集、組み込みと参加継続

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

小児科プログラム、皮膚科プログラム、精神科プログラム、放射線科プログラム、病理プログラム、臨床検査プログラム、内科プログラム、家庭医療プログラム、整形外科プログラム、産婦人科プログラム、眼科プログラム、耳鼻咽喉科・頭頚部外科プログラム、泌尿器科プログラム、脳神経外科プログラム、麻酔科プログラム、救急科プログラム、形成外科プログラム、リハビリテーション科プログラム、外科プログラム、口腔外科専門医取得プログラム

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	４５人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
宮嶋　裕明	第一内科	教授	38年	
須田　隆文	第二内科	教授	33年	
前川　裕一郎	第三内科	教授	24年	H7.6.6医師免許取得日
山末　英典	精神科神経科	教授	21年	
緒方　　勤	小児科	教授	38年	
椎谷　紀彦	第一外科	教授	35年	
竹内　裕也	第二外科	教授	27年	H4.6.4医師免許取得日
難波　宏樹	脳神経外科	教授	40年	
松山　幸弘	整形外科	教授	31年	
戸倉　新樹	皮膚科	教授	37年	
三宅　秀明	泌尿器科	教授	26年	H5.4.28医師免許取得日
堀田　喜裕	眼科	教授	36年	
峯田　周幸	耳鼻咽喉科	教授	39年	
伊東　宏晃	産科婦人科	教授	33年	
阪原　晴海	放射線科	教授	41年	
中島　芳樹	麻酔科蘇生科	教授	32年	
加藤　文度	歯科口腔外科	教授	35年	
山内　克哉	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	准教授	25年	
深水　秀一	形成外科	特任教授	39年	
渡邉　裕司	臨床薬理内科	教授	36年	
前川　真人	検査部	教授	37年	
馬場　　聡	病理部	教授	34年	
吉野　篤人	救急部	教授	33年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①感染管理　②緩和ケア　③救急看護　④皮膚排泄ケア　⑤認知症看護　⑥慢性期疾患看護 ⑦看護研究　⑧看護倫理 ・研修の期間・実施回数 ①6/15 ②6/29 ③7/15　④9/13 ⑤10/19 ⑥11/13　⑦6/20　7/12　⑧5/29 ・研修の参加人数 ①162名 ②114名 ③142名　④64名 ⑤110名 ⑥109名　⑦106名 93名　⑧198名
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①退院支援研修　②災害看護 ・研修の期間・実施回数 ①7/30 8/1 10/23 11/30　②7/9 ・研修の参加人数 ①16名、16名、15名、15名　②17名
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容　　がん看護 ・研修の期間・実施回数　　①11/9 ②12/12 ③1/21 ④2/28 ・研修の参加人数　　①52名　②54名　③48名　④40名

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　（２）現状
管理責任者氏名	病院長　金山　尚裕
管理担当者氏名	総務課長：葛山雅弘／人事課長：伊藤一二三／医事課長：北村　強 薬剤部長：川上純一／放射線部長：中村和正／手術部長・医療機器管理部長：中島芳樹 看護部長：佐々木菜名代／診療情報管理部長：堀田喜裕

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	全科電子カルテを導入。カルテは、一患者1ＩＤとし、入院及び外来ともに診療情報室において保存管理している。診療録の院外持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課・医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課･医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課･医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課･医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課･医療安全管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課・感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課・感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課・感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課・感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課・医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課・感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課・診療情報管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課・診療情報管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課・医療安全管理室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課・医療安全管理室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	医事課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課・医療安全管理室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課・医療安全管理室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課・医療安全管理室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課・医療安全管理室	
		職員研修の実施状況	医事課・医療安全管理室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課・医療安全管理室	
		管理者が有する権限に関する状況	人事課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第 6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	１．計画　　②．現状	
閲覧責任者氏名	事務局次長（総務・教育担当）柿澤　稔	
閲覧担当者氏名	総務課長　葛山雅弘	
閲覧の求めに応じる場所	総務課情報公開室	
閲覧の手続の概要 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）に基づき、国籍、住所、年齢、個人及び法人を問わず、浜松医科大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。請求を受理してから、１か月以内（請求の内容によってはそれ以上の日数を要する場合もある。）に開示・不開示等を決定し、請求者に通知する。その後、請求者からの開示の実施申出を受け開示を実施する。		

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・　指針の主な内容： １安全管理に関する基本的な考え方 ２医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 ３医療に係る安全教育のための職員研修に関する基本方針 ４事故報告の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ５医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ６職員と患者との間の情報共有に関する基本方針 ７患者からの相談への対応に関する基本方針 ８その他医療安全の推進のための必要な基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（ (有)・無　） ・　開催状況：年　　１３回 ・　活動の主な内容： 医療安全管理体制の確保に関すること 医療事故等の把握、分析、対処改善、評価及び見直しに関すること 医療に係る安全管理のための職員の研修に関すること その他の医療の安全管理に関すること	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
・　研修の内容（すべて）： 【医療安全講習会】 ４回（全職員対象） 【職種・部署別】 新採用職員ガイダンス：1回、研修医：1回、新採用看護師研修：2回 看護師採用時研修：8回、看護助手採用時研修：3回 新採用・中途採用職員（看護部職員以外）：e-learning 看護職員（育休復帰者）：e-learning 【委託業者】 清掃業者	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機関内における事故報告等の整備　（ (有)・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 収集した情報をもとに、A)外部参加型事例調査、B) 院内事例調査、C) M&Mカンファレンス、D)部署内検証レビュー、E)医療安全管理室のカンファレンス、F)医師並びに看護師GRMが検証、G)検証不要に分類し必要なスタッフで事例検証し、問題点を分析し、改善策を立案し、現場スタッフにフィードバックしている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： １．院内感染対策に関する基本的な考え方 ２．院内感染対策に関する管理組織機構 ３．従業者研修に関する基本方針 ４．感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ５．アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針 ６．患者等への情報提供と説明に関する基本方針 ７．感染対策に関する地域医療機関との連携 ８．その他院内感染対策及び抗菌薬適正使用推進のための基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12回
・ 活動の主な内容： １．院内感染対策の検討・推進 ２．院内感染防止の対応及び原因究明 ３．院内感染等の情報収集及び分析（抗菌薬の使用状況、分離菌種などの情報を含む） ４．院内感染防止策及び抗菌薬適正使用等に関する従業者の教育・研修 ５．従業者の感染管理 ７．その他院内感染対策に関する事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　17回
・ 研修の内容（すべて）： 【院内感染対策講習会】3回（結核、クロストリディオイデス・ディフィシル感染症、抗菌薬適正使用、口腔ケア、感染制御の重要性） 【職種・部署別】 ・新採用職員ガイダンス：1回、研修医：1回、新採用看護師研修：2回 ・看護師採用時研修：8回、看護助手採用時研修：3回、静脈注射院内認定看護師講義：1回、 ・部署別勉強会1回（リハビリテーション） ・新採用・中途採用職員（看護部職員以外）：e-learning ・看護職員（育休復帰者）：e-learning 【委託業者】 ・清掃業者	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ICTラウンド（週1回）による感染対策の実施状況および環境整備の確認 ・耐性菌発生状況の把握とアウトブレイク介入基準に基づく介入、および血液培養陽性患者の把握と評価 ・広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬の使用患者についてモニタリングと抗菌薬適正使用の評価 ・感染対策に関する介入を要した事例の部署別ミーティングの実施 ・院内Web内の感染対策ホームページへの掲載、ICT NEWSの発行、感染対策情報の回覧等による感染情報の提供 ・院内感染対策ポケットマニュアルの配布	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　２回
・　研修の主な内容： ・医薬品の安全使用のための注意点（アレルギーカード、輸液フィルターおよび院内事例の紹介） ・静脈注射の知識および実施に当たり注意すべきポイント ・処方オーダーの入力方法 ・医薬品の取扱で注意すべきこと	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　（(有)・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 実施状況については年1回チェックシートを用いて確認している。	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　（(有)・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 小細胞肺がんに対するパクリタキセルの使用（キャンサーボードで審議） 妊婦へのケトプロフェンテープの処方（処方を変更しアセトアミノフェン内服で対応） 汗腺がんへのパクリタキセルの使用（キャンサーボードで審議） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤師による処方監査・処方確認および入院患者への処方確認時に使用目的を確認し、必要に応じて疑義照会および処方確認を実施している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年　82　回
・　研修の主な内容： 7種の機種（本院は診療用粒子線照射装置を持たず）を含む医療機器の有効性、使用法、保守点検の方法、不具合発生時の報告手順、法令の定めるコンプライアンスの遵守事項の確認を中心に行った。	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 機器に添付される使用・保守説明書に記載された点検項目に従い点検を行った。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 未承認の医療機器の使用はなかったが、ある場合は医療安全管理委員会と協議の上、使用基準に遵守した方法で実施する予定。 ・　その他の改善のための方策の主な内容： ① 呼吸サポートチーム（RST）が中央診療施設、病棟の呼吸器全般（条件、作動状況のコンサルタントなど）を巡回監視した。　活動は1回/週、定例会議は1回/月 ② 病棟で使用する患者モニター、呼吸器の作動状況の確認のため、1回/日（平日のみ）MEが巡回監視を実施した。 ③ 当直担当者を配置し、医療機器全般の緊急対応を行った。 ④ 待機当番を配置し、通常業務の時間外の対応や夜間祝日の緊急手術等の対応を行った。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・責任者の資格（(医師)・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 →医療安全管理規程を定め、統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（　１名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 情報の整理は薬剤部医薬品情報管理室にて実施している。 情報の周知は添付文書改訂の通知を定期的に実施している。また医薬品安全性情報等の通知および当該医師への伝達、DI ニュースの発行などを必要に応じて実施している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬等による治療が必要になった場合、治療を実施する医師は薬剤部医薬品安全管理室あるいは製剤室に照会する。 病棟などで薬剤師が確認した際は医師に疑義照会などを実施している。 院内製剤は診療倫理委員会及び薬剤管理委員会にて承認を受ける。 ・担当者の指名の有無（(有)・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部　，職種　薬剤師　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（(有)・無　）	
・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：サンプル（各科より２冊ずつランダム抽出）について説明内容と、説明後の患者の反応について調査し、結果を運営企画室会議・診療科長会議・診療情報管理委員会にて報告・周知を行った。	

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

全例：退院時要約、手術記録、入院診療計画書
サンプル（各科より２冊ずつランダム抽出）：入院診療計画書、診療録、看護記録、薬剤記録、退院時要約、説明同意書
サンプル調査については、結果を運営企画室会議・診療科長会議・診療情報管理委員会にて報告・周知を行った。

⑥　医療安全管理部門の設置状況	(有)・無

・所属職員：専従（２）名、専任（４）名、兼任（１１）名

うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（５）名

うち薬剤師：専従（　）名、専任（２）名、兼任（　）名

うち看護師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（２）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療事故及びインシデントの収集、調査、分析に関すること。
医療事故防止対策の立案及び周知に関すること。
リスクマネージャーとの連絡調整に関すること。
医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。
医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること。
医療事故防止対策マニュアルの作成に関すること。
医療事故等に係る診療録等記載の確認、指導に関すること。
医療事故等に係る対応状況の確認、指導に関すること。
病院医療安全管理委員会の庶務に関すること。
医療安全に資する診療の状況の把握及び職員の医療安全の認識の状況の確認に関すること。

※モニタリングの具体例

・手術時の静脈血栓予防策の実施率
・中心静脈挿入時のチェックリスト

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（　５件）、及び許可件数（　５件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ (有)・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ (有)・無　）

・活動の主な内容：

病院で行う新規医療技術の導入の申請に対し倫理的・科学的妥当性について審査、確認及び事後検

証。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0件）、及び許可件数（ 0件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品とを比較した場合の優位性（予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む。）
未承認新規医薬品等の使用条件（使用する医師又は歯科医師の制限等）
当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法（血液検査の実施、調査票の配布等）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 294 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 81 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

各事例に応じ医療管理室、カンファレンス、他職種カンファレンス（Ｍ＆Ｍカンファ）、部署内検証の結果をもとに、事例の検証を行い再発防止策の立案を行っている

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：弘前大学医学部附属病院 ）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：佐賀大学医学部附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

医師の配置は専任が２名であるため、今後専従医師の配置をすること。

高難度新規医療技術評価委員会の議事要録へのより具体的な記載をすること。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 医療安全患者相談窓口の設置　→　医療安全管理室 責任者：医療安全管理室長 ゼネラルリスクマネージャー（ＧＲＭ）及び 医事課医療安全推進係長

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況 【医療安全講習会】 ４回（全職員対象） 【職種・部署別】 新採用職員ガイダンス：1回、研修医：1回、新採用看護師研修：2回 看護師採用時研修：8回、看護助手採用時研修：3回 新採用・中途採用職員（看護部職員以外）：e-learning 看護職員（育休復帰者）：e-learning 【委託業者】 清掃業者

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 全員、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院管理者研修を受講済みである。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第７条の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 現在、基準を検討中（令和元年11月下旬確定予定） ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（　有・(無)　） ・ 公表の方法 大学ホームページに公表予定

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・(無)
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（　有・無　） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（　有・無　） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（　有・無　） ・ 公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （〇を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
・病院運営における中期目標、中期計画に関する事項（進捗状況含む）。
・病院予算、業務実績報告に関する事項。
・その他病院運営に関する事項。

・審議の概要の従業者への周知状況
診療科長会議で報告を行っている。院内ホームページに議事内容を掲載している。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（○を付す）	職種	役職
金山　尚裕	○	医師	病院長
須田　隆文		医師	副病院長（教育・研修担当）
三宅　秀明		医師	副病院長（運営・管理担当）
中島　芳樹		医師	副病院長（リスクマネジメント担当）
佐々木菜名代		看護師	副病院長（患者サービス担当）・看護部長
宮嶋　裕明		医師	第一内科主任診療科長
竹内　裕也		医師	第二外科主任診療科長
難波　宏樹		医師	脳神経外科長
戸倉　新樹		医師	皮膚科長
堀田　喜裕		医師	眼科長・診療情報管理部長
中村　和正		医師	放射線治療科長
増本　一真		歯科医師	歯科口腔外科病棟医長
前川　真人		医師	検査部長
木村　通男		医師	医療情報部長
小林　利彦		医師	医療福祉支援センター長
川上　純一		薬剤師	薬剤部長
安田　浩明		事務	事務局次長（病院担当）

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・(無)　） ・　公表の方法 ・　規程の主な内容 　病院長は、病院の業務を統括する。 ・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 　副病院長（教育・研修担当） 　副病院長（運営・管理担当） 　副病院長（リスクマネジメント担当） 　副病院長（患者サービス担当） ・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 　毎年1回開催される以下の会議・勉強会・研修会等に職員を参加させ、病院のマネジメントを担う人員の育成に努めている。 ・近畿・中部地区病院経営企画担当事務職員勉強会 ・近畿・中部地区附属病院経営担当課長等会議 ・国立大学附属病院係長クラス勉強会 ・国立大学附属病院契約実務担当者ワークショップ ・国立大学附属病院若手職員勉強会

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無

・監査委員会の開催状況：年　２回

・活動の主な内容：

本院の安全管理体制について外の委員も含めた委員で監査・評価を実施する。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ (有)・無 ）

・委員名簿の公表の有無（ (有)・無 ）

・委員の選定理由の公表の有無（ (有)・無 ）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・(無) ）

・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
小島　崇宏	大阪Ａ＆Ｍ法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
桑原　允嗣	静岡県立高等学校元副校長		医療を受ける者	有・(無)	2
大磯　義一郎	国立大学法人浜松医科大学		法律に関する識見を有する者	(有)・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 内部統制システム推進責任者（病院長）は、附属病院の業務における内部統制システム（法令等に適合するための体制及びその他業務の適正を確保するための体制）の整備及び運用を推進するとともに、その整備及び運用状況について、内部統制担当役員に定期的に報告を行うものとしており、内部統制担当役員は、内部統制上の重大な問題を発見し、又は報告を受けたときは、速やかに適切な対処を行うとともに、内部統制最高管理責任者（学長）に報告し、併せて再発防止措置を講ずるものとしている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページによる公表を予定している。

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

国立大学法人法に基づき、大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関として経営協議会を置いている。当協議会は、外部有識者の諮問会議の性質を有するもので、大学法人経営の大きなウエイトを占める附属病院の管理運営に関しても多くの意見・助言等を受けている。

・ 会議体の実施状況（　年４回　）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（　年４回　）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・ 公表の方法
規程は公表していないが、運営の透明性を担保するため、協議会の開催状況、審議内容、外部委員の意見等を大学ホームページで公開している。

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人浜松医科大学経営協議会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長（○を付す）	利害関係
今野　弘之	学長	○	有
山本　清二	理　事（教育・産学連携担当）		有
渡邉　裕司	理　事（企画・評価担当）		有
田中　宏和	理　事（財務担当）		有
畫馬　明	理　事（経営担当）		有
金山　尚裕	副学長（病院担当）		有
伊藤　修二	公益財団法人浜松市文化振興財団代表理事		無
猿田　享男	公益財団法人　医療研修推進財団顧問		無
紀平　幸一	一般社団法人　静岡県医師会長		無
布村　幸彦	公益財団法人　東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会組織委員会副事務総長		無
正木　治恵	千葉大学大学院看護学研究科教授		無
御室　健一郎	浜松信用金庫理事長		無
門田　守人	地方独立行政法人　堺市立病院機構理事長		無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年０件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 医療安全ニュース等において周知

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構　令和元年6月17日（月）～19日（水）※更新審査 検査部：公益財団法人日本適合性認定協会　平成31年3月6日（水）、7日（木）	

（注）医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 （１）広報誌による情報発信 ①病院案内（年1回発行） ②「はんだ山の風」（年4回発行） ③医療福祉支援センター広報誌「かけはし」（年4回発行） ④刊行誌「知っておきたい、病気のこと、治療のこと　浜松医科大学医学部附属病院の最新治療」を出版（H31.2月） （２）市民公開講座等による情報発信 ①　浜松医科大学主催「公開講座」（R01.11開催予定） ②　浜松医科大学主催　静岡がん治療フォーラムを開催（R01.9.19） ③　静岡肝疾患診療連携拠点病院主催で「市民公開講座」（年3回）を実施している。	

3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1)緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、呼吸ケアサポートチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチームによるチーム医療を提供している。 (2)感染対策室、医療安全管理室、医療福祉支援センター（がん相談、肝疾患相談、難病相談、退院支援）等多職種が参加した診療・ケアの実施している。	

（様式第 8）

浜 医 大　医　第 ４ 号
令和　元年１０月　４日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　国立大学法人浜松医科大学
学長　今 野　弘 之　（印）

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1.　管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

2.　医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（２）名、専任（４）名、兼任（１１）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（５）名 うち薬剤師：専従（　）名、専任（２）名、兼任（　）名 うち看護師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（２）名

3.　医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師１名、看護師２名を専従職員として配置済み。 ５割以上従事する者として、医師１名、薬剤師２名を配置済み。 薬剤師の専従職員の配置については検討中。